

環境首都札幌推進協議会

第2回会議

議事録

日時 : 平成21年6月9日(火) 10:00 ~
場所 : 札幌市役所本庁舎 6階 北会議室

札幌市環境局

1 開会

事務局（宮佐環境計画課長） おはようございます。

まだお1人お見えになっておりませんが、定刻になりましたので、ただいまより環境首都札幌推進協議会第2回会議を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、環境計画課の宮佐と申します。よろしくお願いいたします。

また、札幌市では、6月1日よりエコスタイルを実施しておりまして、このような軽装で失礼をさせていただきます。

まず、本日の委員の皆様の出欠状況でございますが、宮本（奏）委員と渡瀬委員が欠席されております。また、渡部委員につきましては、人事異動によりまして委員を続けることが難しいというお話をいただきまして、現在、後任の方を人選中でございます。

それでは、まず最初に、配付資料の確認をさせていただきます。

まず、本日の次第、資料1が委員名簿となっております。そして、資料2が本協議会の活動計画等についてという資料でございます。そして、資料3が私ども環境都市推進部の今年度の主な事業ということで、クリップどめでちょっと分厚くなっております。資料4が、色刷りの資料、これもクリップどめでございます。そのほか、委員の皆様から本日提出いただきました資料としましては、久保田委員の方から、K氏の地球を守るためのプロジェクト札幌行動の取り組み状況というA3の縦書きの資料が1枚、それから、井下委員の方から、アースデイEZOという資料、イオンの大野委員の方からホチキスどめのA4の資料4枚物、最後に、今お配りします地球に恩がえしという資料の4種類でございます。そのほか、私どものパンフ関係をお配りさせていただいております。

よろしいでしょうか。

もし、説明段階で不足等がございましたら事務局に申し出てください。よろしくお願いいたします。

本日の予定でございますけれども、お手元の会議次第のとおり、まず最初に、今回、札幌市では4月に人事異動並びに機構改革がございまして、我々事務局のメンバーも若干変わっておりますので、ごあいさつと自己紹介をさせていただきます。また、前回の第1回会議に出席いただけなかった委員の方で、本日、出席の方が4名いらっしゃいますので、4人の方には自己紹介をお願いいたします。その後、議事に入りまして、まず最初に、今年度の本協議会の活動計画等につきまして事務局から説明をさせていただきます。その後、本日、出席いただいている5人の委員の皆様から取組状況等を報告いただきます。次に、本市の事業概要について説明させていただきます。最後に、仮称とありますけれども、札幌市環境プラザ事業検討部会の設置について協議をしていただく予定になっております。

よろしくお願いいたします。

2 札幌市挨拶

事務局（宮佐環境計画課長） それでは、まず最初に、開催に当たりまして、この4月に環境都市推進部長に着任しております宮田よりごあいさつを申し上げます。

事務局（宮田環境都市推進部長） 皆さん、おはようございます。

環境都市推進部長の宮田でございます。

4月に着任いたしました。

環境首都札幌推進協議会の第2回目の会議に当たりまして、一言ごあいさつさせていただきます。

本日は、ご多忙のところ、会議に出席いただきまして、まことにありがとうございます。

昨年7月、国におきまして、温室効果ガスの長期削減目標が60%から80%ということで掲げられたところでございます。現在、2020年の中期目標の策定に向けて検討されているところでございます。いろいろな方面から議論が出ているのは皆さんご承知のところだと思いますけれども、恐らく、6月中にはこの削減目標が示されるものというふうに見ております。

このような国の動きを受けまして、本市におきましても、現在、温暖化対策推進計画の改定作業を進めているところでございます。また一方で、本市は、地球温暖化を本市の最重点施策の一つというふうに掲げておりまして、本日の会議でもいろいろ取り組みをご紹介させていただきますけれども、さまざまな取り組みを行っているところでございます。この施策を効果的なものにしていくためには、どうしても市民、事業者、そして札幌市の連携が必要不可欠なものだと考えております。この推進会議が、これら関係者をつないで一体として施策を進めていく場として機能していただければと考えているところでございます。

環境都市「環境首都・札幌」という非常に大きな名前がついてございますけれども、それぞれの取り組みは小さい取組の積み重ねというふうに考えております。どうぞ、限られた時間の中ではございますけれども、この会議で活発な議論をいただきまして、今後の環境首都札幌の方向性を担っていただければと考えております。

簡単ですが、冒頭のごあいさつとさせていただきます。

3 委員紹介

事務局（宮佐環境計画課長） それでは、引き続きまして、4月にかわりました事務局の新しいメンバーから、それぞれ自己紹介をさせていただきます。

事務局（米森環境産業推進担当課長） おはようございます。

第1回でも事務局として自己紹介させていただきましたが、4月から、環境産業推進担当課長ということで、またお世話になることになりました米森と申します。よろしくお願いいたします。

事務局（木田環境管理担当課長） 事務局のオブザーバーですが、環境管理担当課長をしております木田と申します。

きょうご出席の皆様になじみのある分野としては、例えばグリーン購入の事務局とか元締めをやっていたり、エコメンバーの取りまとめをやっていたり、あとは、先日発表しましたさっぽろ環境賞のまとめをやっていたり、いろいろなことをしております。よろしくお願いいたします。

事務局（西岡計画係長） 皆さん、おはようございます。

計画係長の西岡と申します。

皆さんを目の前にして若干緊張しておりますけれども、よろしくお願いいたしますと思います。

事務局（高田環境担当係長） 環境教育担当係長をしております高田と言います。

環境プラザの方も担当しております、きょうは部会の検討議題ということで、後ほどご説明させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局（宮佐環境計画課長） 以上、よろしくお願いいたします。

続きまして、本日、初めてこの会議にご出席いただきました4人の皆様に、一言ずつごあいさつをいただきたいと思います。お名前、所属、現在の活動内容等、また環境に対する思いなどございましたら、お一人1、2分程度でよろしくお願いいたします。

それでは、名簿順で大野委員からよろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。

大野委員 皆さん、おはようございます。

イオン北海道のCS・社会貢献部の部長をおります大野と申します。

昨年の2月まではジャスコ札幌元町店の店長をしておりました。去年の3月に、会社の方で環境社会貢献部が新設されまして、その部長になれということで着任しました。そして、今年3月に、環境社会貢献部にプラス、お客様サービス、それから品質管理を担当しろということで、CS・社会貢献部という形になりました。

非常にかたい会議を柔らかくしてしまうということで、大変ご迷惑をかけるのではないかと思います。

ひとつよろしくお願いいたします。（拍手）

事務局（宮佐環境計画課長） それでは、菊池委員、よろしくお願いいたします。

菊池委員 おはようございます。

商店街連合会の菊池でございます。

私自身は、狸小路商店街で楽器屋をやっておりますが、商店街連合会といたしましては、昨年、エコメンバーに関しまして上田市長と一緒に頑張りましょうということでやっております。各商店街ごとに、BDFに対する油を集めるという形でいろいろな活動しております。商店街ということで、イオンさんとは違いまして、みんな小さいお店の集まりです。ただ、地域住民には一番近いところで商売させていただいているということですので、これからも環境に配慮した地域になくはない商店街を目指していきますので、よろしくお願いいたします。（拍手）

事務局（宮佐環境計画課長） ありがとうございます。

それでは、新保委員、よろしくお願いいたします。

新保委員 こんにちは。

ひまわりの種の会の新保留美子と申します。

1回目は、娘の中学校の卒業式であいにく参加できなかったのですが、その娘が小学校1年生になるときに、ひまわりの種の会という団体を立ち上げて環境活動を行っています。

自然エネルギーの中で太陽光発電を中心とした普及啓発活動をしておりますが、大通公園のイルミネーションを太陽光発電とグリーン電力証書でともすという活動とか、円山動物園に市民の太陽光発電所を設置するという、あと、環境教育として、ガバチョというゲームを開発しまして、参加者が大統領になって環境と経済のバランスをとりながら二酸化炭素を削減するというゲームをオリジナルで開発して、去年は札幌ドームのふわふわアドベンチャーとか大きなイベントに参加をして、お子さんたちに体験いただいたりして

います。

そういったことで、たくさんの人と楽しみながら環境活動を一緒にしていけるようなことを目指しています。

どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

事務局（宮佐環境計画課長） 最後に、照井委員、よろしくお願いいたします。

照井委員 札幌ハイヤー協会の照井と申します。

1回目は、別の会議がありまして、大変失礼いたしました。

タクシー事業そのものは環境問題にちょっと立ちおくれがありまして、やっとグリーン経営とか、今度は運転手とか管理者を集めて、コースを借り切ってエコドライブの訓練をやるかということで動いています。それから、去年の原油価格の高騰で、通常ですとLPGをたっているのですけれども、大体、ガソリンの半分、それから3分の1ですが、燃費が非常に悪いのです。6キロくらいなのです。ですから、逆に言うと、プリウスあたりだと3倍以上走れますので、今、実験的にハイブリッドカーの導入などを行っているのですけれども、大体1台当たり年間10万キロ以上走りますので、プリウスが果たしてタクシーとして5年くらい乗れるかどうか実験しながら進めております。特に、地方においてはLPGの装てん所がないものですから、安いディーゼルの低公害車もメーカーの方をお願いしています。

それから、メンバーを見ますと、特に排ガスを多く出すトラックとかバスが入っていません。我々車産業の協会は、いろいろ横のつながりもございますので、そういった部分のお話とか、ぜひということになれば、私を通していただければパイプをつなぎたいと思いますので、よろしくお願いいたします。（拍手）

事務局（宮佐環境計画課長） ありがとうございます。

改めまして、よろしくお願いいたします。

それでは、この後の議事進行につきましては、小林会長にお願いしたいと思います。

会長、よろしくお願いいたします。

4 議題

(1) 平成21年度活動計画等について

小林会長 皆さん、おはようございます。

今、4人の新しい方に自己紹介をしていただきましたけれども、本当に環境活動というのは、事業者、市民、市と全員の協力で進めなければならないということを実感させられました。さらにかたくなりがちな会を柔らかくしていただいてありがとうございます。この会議では、お互いのノウハウとか情報を提供し合って環境活動を一層活性化させていきたいと願っておりますので、柔らかくしていただいて本当にありがとうございました。

では、今日の議題に入らせていただきます。

今日は12時までには終わらせたいのでご協力をお願いいたします。

最初に、21年度の活動計画についてです。

この環境首都札幌推進協議会の今年度の活動計画についてですけれども、この場で起草委員会をつくってゼロから書くのは大変なので、事務局で原案をつくっていただいています。原案を皆さんに聞いていただき質疑応答のうえ、これでよしということになればそれ

でスタートしたいし、こういうところを直した方がいいのではないかというご意見をちょうだいしましたら、それはそれでこの協議会が計画をつくることになっていきますので修正したいと存じます。よろしく願いいたします。

では、事務局からご説明願います。

事務局（西岡計画係長） 先ほどご紹介させていただきました計画系の西岡から説明をさせていただきます。

資料2をごらんいただきたいと思います。

1番に、環境首都札幌推進協議会の目的等とございます。第1回の会議でも一度ご説明させていただいたところではありますが、本会議の目的、役割について、再度、おさらいということで、改めて簡単にご説明させていただきます。

環境首都札幌推進協議会は、世界に誇れる環境都市「環境首都・札幌」の実現を目指して、市民、事業者が自らの環境に関する活動を効果的に行うための方策や、環境に関する市の施策等について協議する市民参加組織であり、主な役割としては次の2点がございません。

についてでございますけれども、委員につきましては、自ら又は属している団体等で実施している環境に関する活動を会議の場で発表いただき、意見交換を行うことなどにより、自ら又は所属する団体の活動の改善につなげる。これとともに、委員間の情報交換を図り、さらに多くの市民を巻き込んだ活動を展開していくきっかけにいただければと考えております。このようにして、環境首都・札幌の実現の取組の輪を広げていきたいと考えております。このような考えから、本日の議題にもございますけれども、この後に予定しておりますが、委員の皆さんの取組について発表していただきたいと考えております。

また、 につきましては、札幌市の環境施策について随時我々から情報提供をさせていただき、市の施策について委員の皆さんとの情報共有を図り、皆さんからいただいたご意見を踏まえながら、よりよい環境施策を進めていきたいと考えております。これにつきましても、この後の議題2で札幌市の事業概要についてということで、市の施策についてご説明させていただきたいと考えております。この中でご意見をいただければ幸いと考えております。

このような取組を通じまして、本会議につきましては、市民、事業者、行政が一体となって環境に関する取組を進めていくための場として機能することを目指しているところでございます。

続きまして、裏面をごらんください。

2、平成21年度の活動計画についてとございます。

今ご説明させていただきましたが、本会議の目的等を踏まえまして、今年度の活動計画の案を作成いたしました。本日の第2回会議の後、9月から11月の間に、第3回会議を考えております。さらに、来年1月から3月頃に第4回会議の開催を考えております。

第3回会議では、本日の会議と同様に、委員の皆さんからの取組の発表と、札幌市の事業報告をさせていただきたいと考えております。

第4回会議におきましては、このころには本協議会の設置から約1年が経過しますので、本協議会としての平成21年度の活動の総括と、もう一つ、平成22年度の活動予定について協議することと考えております。

以上でございます。

小林会長 ありがとうございます。

今ご説明いただいたA4裏表の部分ですけれども、最初には目的と主な役割と、その解説が書いてあります。裏面には、今年度の予定がありました。

ご意見、ご質問はございませんでしょうか。

この目的は、会を立ち上げた第一回の会議にもお諮りしたところであります。また、札幌市の環境施策について協議するということについては、後ほどまたご説明があると思えますけれども、環境審議会と、この協議会の役割について、この協議会は環境基本計画をどうやって推進したらいいかということについて協議するのが主でありますけれども、と について、この協議会の役割を示しております。裏には、今年は今日のほかにあと2回ですが、予定が示されています。

何かご意見ございませんでしょうか。

よろしゅうございますか。

(「なし」と発言する者あり)

(2) 各委員の取組状況について

小林会長 では、今年度の活動計画については、皆さんのご了承をいただきましたので、このように進めさせていただきたいと思えます。

ありがとうございます。

では、次に、各委員の取り組み状況についての部分に移ります。

きょうは、次第にありますように、名簿のあいうえお順の上の方からお願いして、5名の方に引き受けていただきました。時間が限られているので、お1人当たりの発表5分、質疑5分、トータル10分以内くらいずつでお願いしたいと思っております。

では、最初は井出委員からお願いいたします。

井出委員 皆さん、こんにちは。おはようございます。

私は、ススキノで、鮭処いちいというすし屋を経営しております。

環境活動ということで、ススキノから毎日大量に出る使い終わった割りばしを何とかリサイクルできないかということで、本当に個人的な活動なのですが、声かけをして頑張っております。

きょう渡してあります手書きのチラシですけれども、地球に恩がえしというイラストがかいています。これは、私の手書きで、紙に印刷していろいろ大量に配るということも考えたのですが、紙を出さないように、多少は印刷して配ったのですが、あとはインターネットで間伐材とか割りばしとかで検索をしてくださった方に、私はブログも書いているのですけれども、そのブログにつながるようになっていまして、このページにも行きつくようになっていきます。子どもにもわかりやすいようにということで、こういうイラスト入りで、非常にわかりやすい言葉を選んで書いています。

こういう活動をしておりまして、この裏に印刷されているのは、上に私のブログのタイトルの寿司屋のおかみさん小話と書いていますけれども、家族へのありがとうを言い続けるブログです。

この下に、これは2008年の記事ですけれども、私が最初に割りばしをいろいろ集めたりしようと思ったきっかけから、自分で学んだことをわかりやすく書いています。皆さ

んはとっくに知っていらっしやることばかりだと思うのですけれども、意外と知らなかったりします。一般の人は、木を切るイコール割りばしイコール環境破壊というふうに強く思われてしまっているのです、北海道産の間伐材を使えばそういうことにはならないよということを、広く皆さんに、一般の方々に自分が学んだ分もお伝えしたいと思ってブログでいろいろ情報発信をしております。

今までやってきた活動に関しては、ブロガーさんを集めて、割りばしをリサイクルしてくれる江別市の王子特殊紙まで行って、割りばしが1膳でA4のコピー用紙4枚になるのです。どういうふうに紙になるのかというのを、その中は撮影できませんでしたが、それを見てブロガーさんにも記事を書いてもらって、いろいろな人にそれを伝えたいということをやっています。

それから、間伐材で割りばしをつくっている企業は北海道に2社しかなくて、留辺蘂と下川町ですが、下川町に実際に泊まりで行きまして、間伐されていない真っ暗な森林を見に行ったり、実際に自分の目で見てきました。

そういうことをいろいろしながら、今、ブログという性質上、テレビとかラジオとか新聞にも来てもらったりして、この間伐材についてとか、リサイクルについていろいろ情報発信しているのですけれども、それでもラジオで見たよとかテレビで見たよと言って集まってくるのは、本当に店舗として二、三軒です。一般家庭では余り割りばし出ませんが、店舗でということになると、大企業は企業全体で考えなければいけなかったりいろいろ難しい問題もあるようで、そのコピー用紙はもらえないのかとか、そういうこともあります。

実際は、今、私の周りで個人的に連絡をとって個人的にやり出した人もいます。それ以外では、すし屋3軒、居酒屋2軒、割烹が1軒という程度ですが、地味にそういう活動をしていて、ススキノ全体で割りばしが集められる日が来ないかなと思って頑張っております。

話したいことはいろいろあったのですけれども、そんなに時間もないので、今後ですが、今日いらしている環境サポートセンターの松本委員の発案で、今、ススキノ、北海道の店舗20店舗ぐらいに間伐材の割りばしを使っていただいて、それを大々的にやってみようという試みを松本委員とやっています。それが通るかどうか、まだ申請中で通らないかもしれないのですけれども、そういうこともやっております。

もう5分ぐらいたちましたね。以上です。ありがとうございました。（拍手）

小林会長 どうもありがとうございました。

質問、その他ございませんか。

北海道環境財団の松本委員、何かプラスアルファのお話はないですか。

松本委員 大丈夫です。

小林会長 今お聞きのような仕組みづくり、社会全体でこういうふうにしていこう、認識を改めようということで非常に熱心にやっておられます。

いま井出委員がお配り下さった「地球に恩返し～使い終わった割り箸を紙に変えよう」のパンフレットが手書きのとても優しい字であることと、みんなにわかる言葉を使うというのは、環境行動を広める上で重要な要素だなと思って聞かせてもらいました。

太田副会長 1ページ目に「洗わずに」と書いてあるのですけれども、これは何かあるのですか。

井出委員 洗うと、水を大量に使うのです。コピー用紙にかえるまでの2次的な資源をすごく使ってしまいますので、洗う必要はないということです。もともと紙にするときには大量に水を使うそうなので、それで十分なのです。本当に真っ白い紙になってきますので、だれかが食べたのりがついているということはありません。

太田副会長 わかりました。

小林会長 リサイクルする工場の側からもいろいろな事情を聞いて、ちゃんとフィードバックしていきまして、静脈のルートをうまく流すような努力をされている方がたくさんおられます。どういう紙をまぜてはいけないとか、ちゃんと聞いてくるといのはとても大事だと思いました。

それから、今の留辺蘂のお話と、もう一つ、下川町の間伐材は、4丁目のセントラルの地下1階に、下川町の割りばしと森林の循環がいかにか大切かということで大丸エコプランのパネルがたくさんありますので、それも見ていただけたらと思います。

どうぞ。

久保田委員 国産の割りばしと中国産の割りばしを比べた場合、どこがどういうふうに悪いですか。例えば、中国産の割りばしだと、どうしても天然材をほとんどが使用するため、逆にものすごく安いというイメージですね。多少高くても……。

井出委員 それに関しては、中国は森林伐採がかなり進んでいて、本当に間伐ではなくて手当たり次第に切っていると。全部が全部とは言いませんけれども、そういう事実があるようです。それは、中国に行っていないので、はっきり目で見えていないのですけれども、そういうことが問題視されています。中国産の方が、輸入してきても、ものすごく安いのです。今はちょっと値上がりしたのですが、1膳につき1円、2円の世界なのです。間伐材は、まとめて5,000膳、1万膳頼むと4円ぐらいで手に入るのですが、その2円、3円の差で、おそば屋さんとかラーメン屋さんは単価が低いので使えないということになるのです。

ただ、一つマジックといいますか、私は実際に確かめて聞いてみたところによると、私たちのようなススキノの店舗とか、すし屋の店舗は、置くところがないのです。例えば、1万膳、2万膳もの割りばしを置くところがないので、割りばしとか容器などを扱う業者さんにストックしてもらって、例えば1週間に100膳ぐらいずつ持ってきてもらうのです。そのストック料が実はかかっている、それを含めると、中国産は1膳につき4円ぐらいになっているのです。ですから、結局、よく考えたら中国産は同じなのです。ちゃんと割り算をすると1膳4円ぐらいになっていることがわかったので、それなら5,000膳、1万膳頼んで自宅に置いておいても段ボールに一、二個ぐらいなので、そんなにかさばるわけではないのです。ただ、皆さん、そこまでも確かめていないという現状です。

王子特殊紙を調べてみても、では、ススキノで何軒の飲食店が割りばしを持ってきてくれているのですかといったら、1軒の焼鳥屋さんだけという状況です。実際はみんなやっていないというか、そこまで手が回らないのか、やっていないです。それを、地味に1軒、2軒でもいいからやってみませんかという声かけなのです。

そういう感じです。

小林会長 どうもありがとうございました。

何がエコか、環境に優しいとは何かということですね。詐欺でないようにするためには、

皆さん事実をしっかりと知り合う必要があると思いますので、今後ともよろしくお願ひします。

井下委員、ezorockですね。

井下委員 たくさん資料を配ってしまったのですが、一番メインなのは、この緑色のラインが入ったA4サイズの紙です。

ほかに二つ資料を配っているのですが、これはezorockの紹介をしようかなと思って持ってきました。

まず、ezorockの説明を軽くさせていただきます。

ミッションは、50年後も人が夢を持って生きていける環境の創造ということで、今、200人ぐらいの会員がいて、活動しているメンバーは、青年層、20代から30代の人々が主に活動している団体です。今日は時間がないので説明はしないのですが、このような活動、アースデイEZOなどもやっているのだから、参考として見てください。

今日は、私は、ezorockの中のビジョン2050プロジェクトチームというチームのボランティアリーダーをしているのだから、この活動について皆さんに紹介させていただこうと思います。

ビジョン2050プロジェクトチームの説明を先にしますが、このezorockのミッションを達成するためには何が必要かと考えて、私たちこのチームは、長期的な視野を持って本質を見極める力を持った学生がふえればこのミッションが達成されるのではないかと考えて、この二つの視点を大事にしています。

ここには市の方とか企業の方とか市民団体の方がいると思うのですが、行政とか企業の取組はすごく進んでいて、エコ活動とかいろいろな取組が進んでいるのですが、私たち学生とか私の友達とか周りの人を見ていても、そういう取組に取り残されているというか、気持ちがついていけないというか、何のためにやるのかというところまで考えられないような感じがしていて、私はそこに問題意識を持っていました。

本当に大事なこと、本当に大切なことは何だろうか、本質を見極めて自分たちでこれから活動していかねばいけないと思っています。さらに、いろいろなエコの活動がはやりになっているような感じがしているのですが、短期的な利益を優先するのではなくて、50年後をつくっていく世代がちゃんと50年後を意識して行動することはこれから重要だと考えています。その二つの力をつけるために、このチームは一つのプログラムをつくって、それを各地に広める活動を行っていこうという取組をしています。

この紙の下の方から活動報告のところに入るのですが、5月31日にセミナーを開催しました。参加者数は14名で、大学生が主でした。開催の目的は、エコ、エコ言っている社会ってどうなのというキャッチコピーをつけたチラシを配って、それで集まった人たちで話し合ったのですが、日常で感じている環境の取組に対する疑問をプログラムを通して参加者同士で話し合うことで、身の回りのことに対して自分の意見を持って行動するきっかけにしようという目的でやりました。

次のページに行きます。

プログラム内容はこんな感じですが、最初にエコ、エコ言っている社会を感じるかと聞いて、こういうエネルギーチェックをやったのですが、今、いろいろなエコな活動に対して違和感を持っているという人が、半分よりちょっと上で、何となく違うなというふ

うに感じている人がほとんどというか、会場にいた人はみんなそうだったのです。そういう現状でした。

それを踏まえて、みんなでエコって何だろうと考えて、本当のエコと本当じゃないエコを考えました。最終的にチェックリストのようなものをつくって、下の方にチェックリストを載せたのですが、ここでちょっとだけ紹介します。本当じゃないエコというのは、本来の目的とずれているとか、循環ができていなくて無駄が出ているとか、ちゃんと先が見えていないとか、つくられる過程の環境負荷を考慮しなくてエコだと言っているとか、そういう意見が出ました。

本当のエコというのは、環境に配慮した目的がちゃんとあって、その目的がちゃんと果たされている。例えば、マイはしがはやって格好いいなと思って持つのは、結果的にはエコだけれども、それは本当のエコではないのではないかという話をしました。あとは、無駄がなかったり、効果とか影響とか過程がちゃんと見るとか、表面的ではなくて、ちゃんと仕組みを理解した上でその活動ができているかというのが本当のエコではないかというふうになりました。

これらは、ちゃんと整理ができていなくて、出たものを羅列したものを載せてしまったのですが、このような結果が出て、今回のプログラムで参加者の感想を聞いたところ、社会でエコと言われるけれども、何でこんなふうにやらなければいけないのか、ちゃんとつながっていなかったけれども、自分の中のエコが整理されたとか、日常、何をすればいいかわかったという感想が出ました。

発表は以上ですが、この場がもっと効果的に活動していくためというふうにホームページで読んだので、皆さんから質問というか、意見が欲しいのですが、この活動をやるときに人を集めようとしても、こういうものに興味がある人しか集まらなくて、社会に出たときに社会が必要としている力とか、この活動に対してアドバイス等あればいただきたいと思います。よろしくお願いします。

小林会長 井下委員、ありがとうございました。

今、e z o r o c kは、ここに記載されてますように、いろいろなことをしています。石狩浜でやられるイベントには、大変たくさんの学生が集結して、そこでごみの分別とか、そのために使われるエネルギーをみんなで考えてくれる、次の世代に訴えかける仕事をしておられたと思っています。

この紹介事例にはたまたま14人しか集まっていなかったけれども、いい意見が出されていますね。若者がどんなふうに感じているか、特にエコバックは本当は売らんがためのものではないかという懐疑心を持っている若者がいまして、今、そのことを井下委員が説明してくださいました。恐らく、この会議の出席者の中では一番後まで生きる若者ですし、次の時代の環境を自分の問題として真剣に思っておられる世代なので、貴重な意見でした。

きょうは時間の制約があるのですが、このような活動紹介で人のつながりができているので、以後、何かのときにそういうことでお願いして、いろいろな意見を聞かせてもらったらいいかと思います。

それから、就職先についての心配で、それぞれの会社が環境にどのように取り組んでいるかというのは学生が非常に知りたがっている情報です。そんな学生グループもあるので、それもつながりのきっかけになればなと思っております。

太田副会長、何かありますか。

太田副会長 具体的には、6人のスタッフとおっしゃいましたが、最初にどういう形で集まったのですか。

井下委員 もとは、ezorockの中でこの活動をやっていたのが、洞爺湖サミットがあって、そのときに何かやろうというふうを考えて集まったメンバーです。そのときは、今つくっている環境行動計画を市民がつくろうみたいなチームだったのですが、それはちょっと無理だということになって、今の目的が変わって、そのまま続いている感じです。

太田副会長 サークルか何かを通して集まった仲間なのですか。

井下委員 環境NGO ezorockという団体のメンバーでやりたい人が集まりました。

太田副会長 わかりました。

小林会長 もう代替わりもしていますね。

井下委員 はい。

小林会長 ありがとうございます。

では、次に、イオン北海道の大野委員にお願いします。

大野委員 それでは、イオン北海道の環境社会貢献の取組についてお話しさせていただきたいと思います。

環境社会貢献なのですが、今日は、そのうちの環境活動に焦点を絞ってお話したいと思います。

イオン北海道は、イオングループなのですが、イオングループとして昨年3月に、イオン温暖化防止宣言をいたしました。この内容は、イオンは2012年までにCO₂排出量を185万トン削減しますということです。うちの会社は、目標を決めないといけないところがございますので、業界でも初めてなのですが、目標を決めて取組を開始しております。イオン北海道は、その中で6万4,000トンのCO₂を削減しているというふうに決めております。

その取組でございますけれども、四つございまして、一つ目は店舗での設備、仕組みによる削減、二つ目が商品物流における削減、三つ目がお客様とともに取り組む削減、四つ目が京都メカニズム活用ということです。特に、1、2、3は、グループ企業の社長とか専務がトップになって、また細かい分科会を設けて頻繁に会議を開いて、その取組を具体的にしております。その進捗管理もその会議でしております。

最初の店舗での取組でございます。2008年、去年の7月3日に、北海道ではイオン苫小牧ショッピングセンターが北海道発のエコストアとしてリニューアルオープンしております。既存店のエコストア化はグループの中でも初めてということで、非常に注目されたお店でございます。結果でございますけれども、省エネ技術を導入しなかった場合に比べてCO₂の排出量は21%削減可能になったということでございます。

ところが、実際に2008年2月にはかってみますと、それよりもかなり多くの削減ができていまして、25%ぐらいは削減ができているということになっております。それは、株主総会がもう終わっておりますので発表できると思うのですが、普通、小売業というのは売り上げを上げるために改装するのですが、この店は、売り上げよりも環

境に関して一本絞りでお金を使って、何億円というお金を使って改装したお店でございます。ですから、当然、ハードが中心になったわけでございます。とにかく、会議室の蛍光灯は2本つくようになってはいますが、それを1本にして、なおかつ明るさを変えないような形にするにはどうしたらいいのかということで、業者の方と一緒に話をしたり、壁をぶち抜いて自然光を取り入れたショッピングセンターにするとか、とにかく考えられることをいろいろしたのですけれども、一番の問題はハードよりもソフトだったなと。要は、みんな電気を消すようになったのです。それが、こういうような結果になったのだと今は思っております。

それから、2番目の取り組みは、商品物流の取組です。その中の商品の取組でございますが、地産地消ということで、ここは札幌市でございますけれども、道産デーとして毎月第3土曜日、日曜日に取り組んでおります。とにかく地産地消を一生懸命して商品を輸送する際に出るCO₂を少なくしていこうという取組をしております。

それから、物流の取組でございますけれども、関東から北海道に商品を運ぶわけでございますが、運ぶときは最初は飛行機で運んでおりました。店が増えるにつれてトラックに変わったわけですが、去年からトラックからJRのコンテナ輸送に変更しております。モーダルシフトでございますが、これによってCO₂が90%削減できております。

それから、三つ目の取組は、お客様とともに取り組む削減でございますけれども、そのうちの一つは植樹の取組でございます。イオンの植樹の取組に関しては二つあるのですけれども、一つは、イオンふるさとの森づくりと言いまして、自分の敷地の中で駐車場の周りに木を植えていくということで、今年も紋別と静内と江別という形でごらんのような植樹をしてきております。

そして、今週の日曜日ですが、北海道支笏湖植樹祭ということで、要は自分の敷地外でやる植樹です。これは、イオン環境財団が主催でやっているわけですが、中国に行ったりラオスに行ったりして木を植えているわけなのですが、そちらの植樹が6月14日、1万本を植樹予定です。こういう植樹活動は、実は横浜国立大学の宮脇先生にご指導いただいておりますので、その次に、支笏湖でしたら支笏湖に昔から生えていた木の苗木を植えていくということで、それも混植ということでまぜて植えていく方法をとっております。ですから、一見、汚い植え方でございます。けれども、育ちますと森が再生できるということで、この植え方をずっとしております。

二つ目は、レジ袋削減の取組でございます。イオンは、2007年1月に京都で最初に始めたのですけれども、北海道では、去年、全店30店舗のレジ袋無料配布の中止をしております。これは、お客様、消費者協会、NPO団体、あるいは行政と小売業の3社が連携して協定を結んでおります。札幌は9月3日に結ばせてもらったのですけれども、このことによって、今、辞退率が87.2%ということで、10人のうちの約9人はマイバッグを持参するという形になっております。

それから、京都メカニズム活用でございますけれども、こちらの方はカーボンオフセット付きのマイバスケットの発売ということで、今年の4月から始めたわけでございます。排出権を買っていかうということでございます。

最後に、社会貢献の活動を二つお話しします。

一つは、1月23日に札幌まちづくりパートナー協定を札幌市と結んでおります。それ

で、いろいろと活動しているのですけれども、5月31日は、7月1日からごみ袋が有料になるということで、そのPRイベントに上田市長が来まして、うちの発寒ショッピングセンターで行っております。

それから、認知症サポーター100万人キャラバンでございます。これは、厚生労働省と、それからNPO団体が主にやっているわけなのですけれども、4,000名を目標にして来年の2月に達成しようと思ったのですが、6月現在で4,455名ということで、今、以上に話題といいますか、社内ではこのセミナーがこんなに人気があるのかということで評判になっております。

ちょっと関係ありませんけれども、以上でございます。(拍手)

小林会長 大変ありがとうございました。

太田副会長、何かございませんか。

太田副会長 いろいろお聞きして、実際にやっておられて、非常に素晴らしいなと思いました。

特に、私が感じたのは、一つは、地産地消の問題はよく言われていますけれども、本当に北海道としては本当に大事なことだし、実際にやれることなので、非常に素晴らしいと思います。

それから、その次の物流も、90%削減されたということで、素晴らしいと思います。これは、口ではよく言われるのですけれども、なかなか今まで実施されなかったのですが、実際に実施してみると、これだけ削減できたというのは、素晴らしいなと思います。普通、物流というと、トラックの輸送システムを変えとか、トラックで輸送はそのままで少し効率を上げるといことも考えるのですけれども、直接貨物に変えてしまうということは、ある意味で思い切ってやられて、そうすると、言われたとおり、これだけ差があるということで、それを実施されたというのは非常になるほどと思ってびっくりしたし、大変感心いたしました。

小林会長 ありがとうございました。

今の物流に関しては、鈴木委員も非常に苦心されていますね。今、トラック業界も物流の省エネを真剣に考えていますし、今はJRから今度は船にシフトとか、モーダルシフトというのは輸送様式のシフトということなのですけれども、知らないところで先に進んでいます。特に、日本では物流の9割くらいがトラックで、それがCO₂のもとになるわけですから、それは、ハイヤー協会その他の皆さん考えている点だと思えますが、鈴木委員、コメントはございますか。

鈴木委員 逆にちょっとお伺いしたかったのは、貨物列車にかえたことで、コスト的にはどんな感じなのですか。

大野委員 実は、物流に関しては、イオングループなのですけれども、別会社の方で一生懸命やっているのです。ですから、うちの方としてはどんどん変えてくれという話をしているのですけれども、やはり、コスト等を考えるといろいろあるようです。ですから、なかなか進まないのは、そこら辺の理由があるのかなと思います。

ただ、トラック輸送にしても、帰りをからの便で帰るのではなくて満たんにして帰るとか、そういうことで便を減らすという工夫はされているようです。

太田副会長 イオンさんのような大きいところになると、こういう輸送システムを別会

社でやられているから、逆に貨物でやることにそれほどコストがかからないということにはならないのですか。個人個人だとそれはかかると思うのですけれども、それは実際にかなりかかりますか。

大野委員 詳しくはわからないのですが、取組が半年ぐらい遅れた理由は、そういう理由のようです。

小林会長 札幌市内にもあちこち引き込み線があって、JRで運んでいた時代もあります。それから、東京近辺では船を通勤に使い始める試みもありました。今お話しいただいた量のまとまりのこととか、インフラとしてどこまでサポートできているとか、宅急便などは相当集約して輸送をうまくしています。どうしても、明日届けなければならないものと二、三日後でいいものというふうに区分けしながら、物流は随分いろいろ改善の余地があって、進められていると思います。

松本委員、どうぞ。

松本委員 一つだけ質問させていただきたいのですけれども、もとジャスコ元町の店長さんということで、毎週のように行っているの、何か急に親近感を持ってしまったのです。

先ほど、苫小牧のエコストア化のお話の中で、省エネ技術を導入しなかった場合に比べて21%削減という話の中で、技術も大切だけれども、ソフトの部分が一番大切だったという話がありました。従業員の方が電気を消したりというお話だったのですが、従業員の方がそういう行動を起こすというきっかけになった何か奇策はあったのですか。

大野委員 奇策はなかったと思うのですけれども、例えば、ここのお店は、従来から環境に関しての取組が非常に活発なお店だったのです。それは、店長とか副店長、要はこのお店のトップの意識が大きく影響するのだと思うのです。同じように発信していても取組が違うのです。まず、そこなのだと思うのです。

例えば、子どもさんの環境のサークル、うちではチアーズクラブと言っているのですけれども、そういうクラブがありまして、そのチアーズクラブの取組も非常に活発だったのです。むしろ、子どもに学ぶというか、子どもさんがそこまでやってくれるのだったらということが従業員にも伝わったという部分もあると思うのです。ですから、環境がそういうふうにしたのかなと思っています。

私も努力はしました。

松本委員 特に、削減したら社員さんにお金を還元するという仕組みがあったわけではないのですね。

大野委員 それはないです。うちは、汗はかくけれども、金は出さない会社です。

松本委員 どうもありがとうございました。

小林会長 今、市役所建物その他も、札幌のことではないけれども、全体の意識で5%、7%の電力はすぐに減らせるそうです。いわゆるのんべんだらりつけっ放しというのが、そのくらいは常にあったからなのでしょうが、そこから先の節電は結構大変だそうです。松本委員が言われたように、あめ玉をつけないければならないとか、行動を変えるために何か秘策がいるのだらうと思います。

ありがとうございました。

これで、皆さんがそれぞれどんなことをなさっているか、どんな苦勞をされているかを

お互い知ったので、以後はメールとか電話とか個人的にも学び合いができると思います。

では、次に、市民公募で出ていただいた久保田委員にご披露をお願いいたします。

久保田委員 先ほどのイオンさんの立派な発表の後で非常に恥ずかしいのですが、資料はA3の1枚で、縦長のK氏の地球を守るためのプロジェクト・札幌行動の取組状況という資料ですが、K氏というのは私のことを言っております。

私は何を発表しようかと考えまして、今、私が札幌行動との対比においてどの程度実践できているのかというためにつくった資料です。自己評価です。項目は1章から7章まで26項目すべてさっぽろエコ市民26の誓いの項目です。それに対して、真ん中は私がどの程度取り組んでいるのかという内容です。

時間も短いですから、すべてを報告するわけではないですが、第1章の取組の具体的な内容の真ん中の欄です。私のところは、家庭菜園をやっておりまして、敷地が60坪ぐらいで、建て坪は半分、残り30坪程度を家庭菜園と家庭果樹園のような形にしております。家庭果樹園にすると、いつでも新鮮な果物がとれるし、CO₂にもいいではないかと、食べればCO₂が減るという話です。家庭菜園にしても、当然、生ごみを肥料にするというのは最近では本にもなっていますし、余った水、天水を利用するというのも昔からの知恵なので、そういうことをやっております。

その段の右側に、これをやっている間に何か不思議だなということ、気がついたことをちょっとためています。イオンさんはもともとずっと前からやられているのですが、使用済みの廃油は今年から回収することができるようになりました。

その中で、食用廃油というのはなぜ回収するのだろうか。例えば燃やせるものであれば、近隣のディーゼル、重油ボイラーみたいなもので、ちょっと近くで燃やしてしまう、それによって熱を有効利用できるのであれば、そっちの方が持ってくるCO₂の量が少ないのではないかとということがあります。では、なぜ燃やせないのかということ。例えば、空燃比の違いによって一般家庭の石油ストーブでは燃えませんが、燃やすと不完全燃焼になる危険性がありますということはおかっています。では、ほかに何かあるのか。例えば、腐食性の問題なのだろうか、法制度的な問題なのか、環境上で何か燃やすと有害物質何か出てくるのかなということがあって、例えばこれを回収しましょうと始めたのか、目的と中身がちょっと理解できないところがございますので、もし知っている方がおられれば教えていただきたいと思っております。

実は、先ほどezorockさんの話を聞いて、私もこういうことを考えたのです。一番最後に話をしようと思ったのですが、物を理解するというのと、張り合いが出るという二つがないと、なかなか行動が持続できていきません。ですから、ezorockさんが迷われていたのは当然だと思っております。環境というものに直接その答えを出そうとするのではなくて、なぜと理解するということによっていろいろな面で利用できるというふうに考えた方が、私は皆さんが理解できるテーマを与えてくれるのではないかと思います。

引き続き、第3章に移ります。

私は、家を建ててもう20年たつのですが、20年前からもう家の電灯が全部集中スイッチになっております。1カ所で全部の電気をつけたり消したりすることができるようになっています。これは、2路スイッチを3路回路に全部取りかえることによってす

ぐにできるのですけれども、建てる時もそんなに費用がかかりません。

冬場はベランダを冷蔵庫がわりに使っていますということなのですが、20年もたてばそろそろリフォームを考えなければならないのかなということで、リフォームの際には、例えば今の天水利用、ふる水の残りの水を利用するような中間タンクをつけようかなとか、ベランダ下には出窓的なところを利用して冬期冷凍庫、保存野菜を置けるような自然の環境を利用した冷蔵庫をつくってみようとか、いろいろなことを考えております。

さらに、6章のところで、5月に駒岡の清掃工場を見学に参りました。見学の目的は、多分、今後話題とされるだろうサーマルリサイクルの現状を聞き取りにいったということです。私どもの考えるサーマルリサイクルというのは、多分、今でも焼却のための熱が利用されているのです。ただ、昔の考え方は、焼却して減量化する、減量化するために焼却する、焼却すると熱が出るのでやむを得ずどこかに利用しなければならないという考え方です。ところが、私の考える熱サーマルリサイクルというのは、もっと積極的な意味で、熱を利用するためにごみを燃やすのだという考え方に改める必要があるのではないかと、そこから何かヒントが出てくるのではないかとということで調査に行ったわけです。やはり、設備ですから、当初の設計思想がどうしても色濃く出てきてしまいます。そういうことで、もう少し違った意味での検討が必要なのかなという思いがしてきました。

最後の7章のところの一番右側ですけれども、私感というふうに書いてあります。いろいろな取組をやっているのですけれども、積極的、もっとやっているぞという意味でのインセンティブがなかなか働かないということで、先ほども申し上げましたとおり、こういう行動を続けていくというためには、腑に落ちる、理解するということです。そのことがよくわかっている、なぜやらなければならないのかということがわかっているということと、張り合いが出るという、この二つがないとなかなか進んでいかないと思います。ですから、例えばイベントよりもムーブメントの方がもっと重要な意味を持つだろうし、アイデア的には、ちょうど宮田部長の名刺の裏にあるキャラクターのバッジをつくって、エコ活動に参加してくれた人に配ってあげるとか、それを何個かためると最終的にはジャンパーになるとか、一番いいのは褒めるというのが張り合いが出る形です。よくやった、よくやったと褒めていただくと張り合いが出ますので、そういうことも考えています。

私の報告を終わりたいと思います。（拍手）

小林会長 どうもありがとうございました。

市民公募でこの協議会に加わっていただいた久保田委員ならではの個人の実践に基づいたご意見をいろいろちょうだいしました。それから、さらにこれからこんなことをやってみたいということで、野菜貯蔵庫も、熱関係も試みている人が結構いますね。今の清掃工場に関して、事務局に機械技術者が何人かおられますし、専門でやってこられたキャリアの方が何人もおられると思います。

皆さんにちょっと耳なれない言葉があったと思います。サーマルリサイクルというのは、リデュース、減らすが第一ですが、どうしても減らせない分は何か再利用するリユースですね。再利用できなかったものをリサイクルする。そのときに、物質としてリサイクルするのが望ましいけれども、それができない場合には燃やして熱を回収するというのがサーマルリサイクルという言葉です。久保田委員さんがご覧になった駒岡清掃工場には、清掃工場の看板と発電所の看板と二つついています。発電燃料としてもごみを使い、発電し

終わった熱で融雪をしたり、給湯をしたり、近くの老人施設のお風呂、真駒内団地まで暖房に運ぶという熱利用をしているわけです。それを、さらに、むしろ発電燃料としてごみを使うという発想に切りかえるべきだというご提案だと思います。札幌市もそういう方向にはあります。どうしてもないもの、例えば、物質としてリサイクルするにはかえってコストがかかり過ぎるとか、いろいろ厄介なものについては一々分けなくていいと、一緒に出してもらって全部燃やして熱を回収というのも線の引き方であるので、今のご提案はいろいろなところで生きています。

事務局におられる専門家のどなたかからコメントございますか。いいですか。

札幌市全部の清掃工場は、ごらんになるとわかるとおり、入り口に二つ看板があります。発寒発電所、発寒清掃工場ということで、札幌は特に熱利用の用途があるので、そのように造られています。

環境活動を口先だけではなくて、自分が実践し、その自己点検評価を人にさらすのはなかなか厄介ですけれども、久保田委員は種々ご紹介下さいました。理解する、張り合いが出るということは、行動を継続させる上で大事だと思いますし、その仕組みづくりが大事ではないかという重要なご指摘をいただいたと思います。

どうもありがとうございました。

きょう、もう一方、お願いしているのは、佐々木委員です。

佐々木委員、どうぞお願いいたします。

佐々木委員 佐々木と申します。

今まで4人の方から、立派な資料に基づきまして説明をいただいたのですが、私は、とりあえずと言うとおかしいですけれども、毎日、自分の家庭の中からこういうことをやっているな、誰でもやれるなということをお話させていただきます。そして、軽く、こういうことは私もやっている、こういうこともあるのだなというふうに聞いてもらえれば幸いです。

このところ、省エネ、エコ、CO₂対策という言葉がマスコミ等でよく耳にし、政府も車とか家電にエコポイントなる補助制度を回しているようです。確かに、新製品は省エネ、エコ、CO₂節減に力を入れており、機能的にはすぐれていると思います。しかしながら、一般的には新製品に取りかえるという時期に来ないと、すぐにはお金を出してそのような措置はできないと思います。

そこでまず、我が家というか、隣近所でやっていること、皆さんの家庭でも継続していると思いますが、家族内で継続して、これからもずっとやっていこうねということ、二、三、紹介したいと思います。そして、このことについて家族内でトラブルが起きないように、なるべく親たちが進んでやると。隣近所もそうですけれども、こういうこともやっているよということ、皆さんの説明いただいたものとダブることも多いと思いますけれども、ちょっと紹介したいと思います。

まず、節減の関係で、一般的に今は自宅のお風呂に入る人が多いと思うのですが、それらについては、例えば我が家は4人ですが、わかず日には、なるべく続けて入り、燃料とか水の節減をするということです。そして、冷蔵庫の位置につきましても、置く場所を考えながら、時にはフィルターの整備とか物の整理、これは食品を詰め過ぎると温度低下に結びつきますので、置く場所も直射日光を避けるとか、ガスコンロの近くには置かな

いとか、特にこれから夏場にかけて扉の開け閉めの回数を減らすようになるべく心がけたいと思います。

うちの家内がやっているのですが、冷蔵庫にレシートを張りまして、中にある賞味期限に近いものを赤のペンでちょっと書いておいて、使った物は線を引いて消していくと。そうすると、二重買いにもならないし、意外と便利なのです。それは、買ってきたものを一々書き写してどうのこうのというのは手間になるので結構大変だと思いますけれども、レシートを消す分ぐらいはだれでもできると思うのです。

これも、うちの妻がやっているのですが、洗濯物をまとめて洗います。

それから、歯を磨くときに、3分間、水を出しっ放しにすると、約10リットルの水が必要だそうです。これは、子どもが札幌市の水道モニタリングをやっている、食器を洗うときは、6分間使えば20リットルの水が必要だよということで、家族が多い分だけ、歯を磨くと1人分が4倍になりますから、その分だけむだになるので、出しっ放しにしないで、とめてコップに受けてから使うということはだれでもできると思うのです。

その他、最近、缶とかペットボトルの飲み物が多いと思うのですけれども、それらは意外と炭酸などが入っていて飲みやすいものが多いと思いますが、逆に糖分が多過ぎたり、炭酸飲料が多かったりするものですから、我が家ではお茶とか麦茶を冷蔵庫に冷やしまして、それを飲んでいきます。どこか食べに出るようなときは水筒持っていくということは難しいと思うのですけれども、そのように心がけております。

その他、いろいろなことがあると思うのですけれども、特に最近、若い人の間では「もったいない」という言葉がだんだん薄れてきたような感じがするのです。それらを大事にしながら、皆さんと一緒にエコ、節減に取り組んでいければなと思っております。

以上です。(拍手)

小林会長 どうもありがとうございます。

一家のあるじからご説明がありました。札幌市はそういうご家族が100万世帯くらいで成り立っているのです、それぞれの家がちょっとずつでも心がけたら、トータルでどうなるかということ想像させていただきました。

何かご意見はございますか。

(「なし」と発言する者あり)

小林会長 では、きょうはあいうえお順でしたけれども、上から5人の方に、それぞれ緊張して随分準備してくださって、短い時間でご説明いただきました。本当にありがとうございました。

これでお互いに気心知れたというか、どの方がどんなことをなさっている、どんな苦労をしているということがわかったので、以後もこの会でお互いにより深い議論ができるのではないかと思います。

どうもありがとうございました。

きょうは全体で十数人の委員のうち5人の方にご説明いただきましたけれども、あとまだ十数人いますので、あと2回ぐらい、このようなご発表をしていただきたいと思います。楽しみにしておりますので、よろしく願いいたします。

先ほど久保田委員が書いてくださった八つが、「環境首都・札幌」宣言のときに大きな項目として掲げられたものであります。それが、去年の6月25日にK i t a r aで大々

的に、札幌はこれからこうやるぞ、日本中で、世界中で模範になるような都市になるうではないかという宣言をしたわけであります。その後、1年たちまして、今年の6月25日に、今日皆さんにお配りしておりますが、宣言をした後、どうなっているのだということをおいぶかしく思っておられる市民の方がおられますけれども、1年のメモリアルというセレモニーをいたします。

これは、事前申し込み制になっていまして、まだ余り申し込みがないようですので、今日は、これをお配りして、いろいろな方にお伝えしてほしいと思います。お帰りまでにこのチラシもあと5部とか10部ずつ配布していただけますので、お持ち帰りいただいて、たくさんの方にいらしていただきたいと思います。啓明中学校の吹奏楽部が演奏会をしてくれそうです。市長が最初にあいさつをされます。

その中で、三つ目に書いてありますが、さっぽろ環境賞の第1回表彰式をいたします。これは、地球温暖化対策部門、循環型社会形成部門、環境保全・環境創造の三つの部門に分けて市民に公募をしましたところ、71の団体から自己推薦、また他者推薦で環境賞の推薦がありました。71団体について選定をさせていただきました。選定の要件は、特色がある活動かどうか、効果がどうか、地域とのかかわりがどうか、継続性があるかどうか、今後の計画の視点、広がりがあるかという観点から選定させていただきました。

それで、各部門、温暖化とか循環型とか環境保全の各部門に市長賞1、優秀賞2という形でトータル9件、さらに特別賞として4つ、計13の団体に対して、第1回さっぽろ環境賞という表彰式をします。

その1で、きょうご出席の鈴木委員の北海道グリーンファンドは、エネルギーの部門で非常に先見的に自然エネルギー利用の仕組みづくりを進めたということで、札幌市長賞を受けられます。

そのほか、思いやりとか人のつながりを非常に重要視して、「飛んでけ！車いす」の会ですね。これは、もう要らなくなった車いすを修理して途上国に旅行する人に手荷物として持って行ってもらって、向こうの団体にお届けする、そして交流するという「飛んでけ！車いす」の会が市長賞をもらいます。

もう一つは、森林遊びサポートセンターというところなんです。森林を育てて楽しみ、子どもたちとか地域の学校と連携して、ずっと広い活動をされている団体の森林遊びサポートセンターが市長賞です。

それから、藻岩山きのご観察会が特別賞をもらいます。

それから、自動車関連では、カーシェアリングのウインドカーという会社です。これは、何でも個人で所有するということから共有をしていく、それをさらに公有にしていくという方向で環境負荷がうんと減っていくわけですが、一種の会員制レンタカーのような形です。これは、ヨーロッパで非常に増えていますし、東京近辺ではスペースのないマンションとかアパート団地などでやっていたことですが、札幌で初めて進められたカーシェアリングという団体が優秀賞を受けられます。

それから、石上車輛という地元の車両の点検修理などの会社ですが、廃車を1台受け付けるごとに美幌町の森づくりに植林の寄附をします。そして、自動車に乗り続けたということが環境に負荷を与えたのだよということを少しでも意識してもらおうという試みをしている石上車輛さんも優秀賞を受けられます。

それから、今のもったいないということで、物を大切にすることを通じた世代間の活動ということで、おもちゃクリニックという団体が優秀賞を受けます。これは、おもちゃでちょっと壊れて遊べなくなったものを、直してあげて、おもちゃをずっと使えるようにするという団体です。

それから、北海道ブックシェアリングという団体です。要らなくなった本を寄附してもらって、それを修理してから小学校とか地域の図書館に寄附するという活動をしている団体が優秀賞を受けられます。

それから、今の若い世代、次の世代に気づきを促すという意味で、札幌藻岩高校と札幌平岸高校のデザインアートコースが、若い人にどうやって訴えられるかということで、藻岩高校は植林とか、生物のこともそうだし、むだな電気を消すとか、総合的にやっている二つの高校が受けます。

それから、常識を変える気づきを促すという意味では、R&B ホテル札幌北3西2の使い捨てのひげそりなどをなくすということで協力を求めています。これは、ヨーロッパでも東京でもある程度進んでいますけれども、札幌で初めてそういうことの実験をつけられました。イオンさんが、レジ袋を渡さなくなったらお客が減るのではないかというおそれがあったとしても、その意義を感じて率先して進められたのと同じように、ホテルも、何でも全部、連泊でも全部洗うのが当たり前ということではなくて、そういうことを進めるということでこのホテルが特別賞を受けられます。

それから、コープさっぽろは、日常のいろいろな流通の問題とか、商品のトレーの回収などのことで特別賞を受けます。

それから、リコー北海道が、CSRとしての取り組みですね。リコーは印刷機とか紙製品を大量に出す会社であるがゆえに、非常に厳しくその辺に対する努力をするということで、71の団体のうち、今申し上げた13の団体が市長賞、優秀賞、特別賞ということで第1回環境賞を受けられます。そのセレモニーが6月25日にサンプラザホールでありますので、大勢、お誘い合わせていらしていただきたいと思っております。

長々話しましたが、鈴木委員、おめでとうございます。(拍手)

札幌市民の見えるところに、石狩湾新港に1,500キロワットと1,650キロワットの大きな風車が2基ありますが、そのほかに、浜頓別、それから秋田かどこかにもありましたね。そして、電気料金の支払い代行時に5%余分にいただいて、そのお金を集めて、市民が発電事業をやるということを進められた事業というふうに聞いております。本当におめでとうございます。

そういうわけで、いろいろな方がいろいろな取組をなさっているので、お互い、ああそうか、知らなかったけど、こんなに皆やっているのだというふうになるのがいいなと思っております。

ありがとうございました。

(3) 札幌市の事業概要について

では、次の議題に行かせていただきます。

札幌市の事業概要についてということで、事務局からご説明をお願いいたします。

事務局(西岡計画係長) 私の方から、引き続きご説明をさせていただきます。

資料3、平成21年度札幌市環境局環境都市推進部の主な事業という一覧表をごらんく

ださい。

私ども環境計画課は、環境都市推進部に属しております。環境保全活動の普及とか省エネ、新エネに関する業務を行っているところでございます。それらの環境都市推進部の事業をまとめたものがこちらの一覧表です。

ここで一つお断りしておきたいのは、私どもが環境首都札幌を実現するためには、決して我々の部だけではなし得ないお話です。ごみとか、緑とか、ひいては都市交通という部分も、札幌市が行う事業についてはすべて環境に対して配慮する必要があるということで、本日お示ししたのはあくまでも我々の部の事業だけということをご理解いただきたいと思います。

その中で、資料3に戻らせていただきますけれども、私ども環境都市推進部の中の4点目に書いてございますさっぽろエコ市民運動について、担当の菅原係長からご説明をさせていただきます。

事務局（菅原推進係長） 推進係長の菅原と申します。

さっぽろエコ市民運動について説明させていただきたいと思います。

さっぽろエコ市民運動は、エコライフを広めていこうという運動として、さっぽろエコライフ10万人宣言という運動を行っておりました。平成16年から3年間の事業で行いまして、見事、10万人の目標を達成しまして、最終的には13万人の市民の皆さんに宣言をいただきました。せっかく、そういうふうになり上がった機運をさらに継続して、もっと広げて、それを定着させていけないだろうかということで、さっぽろエコ市民運動という事業を19年度から始めています。

皆さんの資料の中に、エコライフレポートというものがあると思います。事業のメインは、このレポートをやっていただくということになります。

裏面を見ていただくと、全部で12項目のエコ行動がありまして、この中から、今やっているものとか、これからやってみてもいいなというものを選んでいただいて、下の番号に丸をつけていただきます。あと、お住まいの区、男女、年代など、個人情報になるようなものは書きませんけれども、それを記入していただいて、ちょうど下の半分を切り取っていただいて、それを私どもに提出していただくものです。これは、季節ごとにつくっております、年4回、発行しております。

この書いていただいたレポートを私どもの方に出していただいて、実際の行動ごとの削減量を集計いたします。集計いたしました削減量は、これだけでもCO₂の削減が行われたということなのですけれども、さらに406キログラムごとに木を1本植えるという事業につなげております。手稲の山口緑地を中心に植樹して森をつくっていこうという事業になっております。

では、どのぐらいやるのかという話ですけれども、一応、19年度から4年間、平成22年度ですので、来年度まで継続しますが、CO₂で4万トンの削減、レポートによる試算値として達成を目指します。植樹の本数としましては、10万本の植樹を目指しております。

これまでの実績ですけれども、21年3月まで、20年度までの実績ということになりますが、レポートは約20万枚の提出がありました。CO₂の削減量にしますと約1万8,000トン、植樹の換算本数では約5万本になります。植樹は、冬の間はできないもので

すから、現在のところ植樹済みの本数としましては2万本の植樹を行っております。

この運動は、特に小・中学校で取り組んでもらいたいということで行っております。20年の夏休みなのですが、見ておわかりのとおり、残念ながら、生徒数から見た場合で小学校18%、中学校16%、学校数で見ても、小学校は54%ということで半分ぐらい、中学校は28%ということで取組率が余り高くなかったという現状がありました。これは、教育委員会と連携をしてやっているのですけれども、教育委員会と連名で通知をしたり、研修会でお話をしたりということで行っていたのですが、冬休みはさらに取組率を高めたいということで、直接、学校を訪問しまして、小・中学校の校長会や、各区の取りまとめをしている幹事の校長先生のところを訪ねまして、いろいろお願いをしました。その結果、20年度の冬休みからは小・中学校のほぼ70%ぐらいの生徒数で、学校数を見た場合にも9割の学校が取り組んでいただいているという状況になりました。生徒数で言いますと、20年の冬休みには小・中学生9万6,000人がこのレポートを提出していただいたこととなります。

これを活用して、学校で独自の取組も行われるようになってきました。東区にある北園小学校では、子どもたちの夏休みとか冬休みに入る前に生活表をつくって、生活の目標、早寝早起きするとか、学習はこういう目当てとか、そこにエコライフに関して必ず目標をつけて、毎日できたか、できないかをチェックするというところに取り組んでくれる学校も増えてきました。

植樹ですけれども、昨年度は7月に1回、9月に1回、植樹会を行っております。9月の植樹会は手稲山口で行いましたが、小学生の参加もお願いしております。

それから、エコライフレポートは、通常は区役所、子ども環境計画課、環境プラザで受け付けをしております。あと、ファクスでの受け付け、それから、今はホームページで直接入力して登録するというところもできますが、それだけではなくて、いろいろなイベントに出展しましてエコライフレポートの参加を呼びかけております。雪まつりとか札幌マラソン、日ハム、コンサドーレの試合などたくさんの方が集まる場所、それから環境総合展など、白旗山フェスティバル、環境をテーマにしたイベント、それから、区役所などと連携しまして、区役所が行う地域のイベントにも出展して参加を呼びかけております。

それから、昨年度は、もっと広めていくにはどうしたらいいだろうかということで、環境推進会議をはじめ、いろいろな方に意見を伺う中で、やはり、このキャラクターを含めて、もうちょっとこういう運動があるという、さっぽろエコ市民運動という名前をもっと宣伝すべきではないかというご意見をいただきまして、ここに書かれているようないろいろな情報誌とか、テレビ、ラジオ、中央バスでの社内放送など、いろいろな場を使いまして宣伝を行っています。

道新に、ちょっと家探しというようなものが土曜日に入ることがあるのですが、こういうふうなものに特集していただきました。

資料はここまでなのですが、実は、ここにいらっしゃる方たちにも非常に協力していただいている方がたくさんいて、例えば井下委員のところではアースデイが今年の5月にありましたけれども、アースデイの全体のキャンペーンとして、アースデイ宣言というものがありましたが、それとさっぽろエコ市民運動をコラボレーションで行いましょうということを行いました。それから、大通会場、円山会場にも出展して、市民運動の呼び

かけを行いまして、2日間で1,500人の参加がありました。

それから、大野委員のイオンの関係では、この6月27日、28日の土・日に、発寒ショッピングセンターの方で出展させていただきまして、エコライフレポートの参加を呼びかけたいと思います。昨年もご協力をいただきまして、ジャスコはすごく集客がありますので、雨も関係ありませんし、昨年も1日で1,000枚以上集まっております。

また、新保委員のひまわりの種の会につきましては、最初のごあいさつにもありましたけれども、札幌ドームのふわふわアドベンチャーなどのイベントで環境ゲームに参加した子どもたちにエコライフレポートを書いてもらうということで協力をいただいて、たくさんのレポートを集めていただきました。

あとは、市民環境ネットワークの宮本(尚)委員にも広報をお願いしまして、宮本(尚)委員のいろいろなネットワークの中で、大通公園を工事する看板にいろいろな広告を打つようなことがあります。そういった場を無料で紹介していただけまして、そこにキャラクターを掲示するというので協力いただきました。

皆さんにアイデアなどがありましたら、例えば会社の中で取り組んでいただける社員に10枚、20枚協力いただけたら、ご家族に書いていただけたら、こんな場ではないかということがありましたら、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

もう一つ、このレポートは、実は表面の真ん中のちょっと下に、7社のサポート企業が載っております。実は、市もなかなか財政難ということで、こちらの会社に20万円から30万円ぐらいのご寄附をいただきまして、このレポートの印刷や、植樹会の苗木の購入の費用に充てさせていただいております。皆さんの中にも、ここに声かけたらいいのではないかと紹介がありましたら、よろしく願いいたします。

以上です。

小林会長 ありがとうございます。

市町村別に、札幌市もCO削減のそれなりの目標等の義務があるわけですが、ご存じのとおり、札幌は大規模工場とか生産工場がないので、COの発生源の大半は民生部門なわけですから、民生部門で減らすのがいかに重要かということ、特に暖房の分、個人の自動車の分、それから電気の使用、それらが全部カウントされています。

電気は、ご存じのとおり、どういう方式で発電したかによってCOの発生量が違うわけですが、北電の場合は、北海道の場合は、今、3割ぐらいが原子力、5割半ぐらいがオーストラリアの石炭と一部石油、あとは水力発電その他が1割ちょっとという状況です。全国では、原発の比率の多い関西電力は1キロワットアワー使って出るCOが一番少ないです。それから、水力発電所と原発がない沖縄電力が一番高くて、1キロワットアワー使うと0.9キログラムCOが出るという状況です。そういう中で、北電はちょうど優等生的な状況にあるわけですが、12月に泊原発の3号機が動き出すともう少し減るということです。電力を使うことによるCOの発生量は日本全体の平均よりちょっと下くらいですけれども、何せ、暖房と自動車と除雪その他ということで、COを大変たくさん出すので、いろいろな形で市民活動をこつこつ積み重ねることが非常に重要だと思います。

今後、さらに市民活動が広がっていくために、この協議会としても市と連携して、お互いにサポートし合う必要があるだろうと思います。きょう、いろいろお話しいただいた中でも、ブログでの発信というのはすごく響きます。それから、今回、知っていただくとい

う意味では、このメモリアルにいろいろな方に出ていただくとか、このエコライフレポートの配布をいろいろな場で取り組んでいただいて、知っていただくということですね。実は、最初にやるのが大変なのですが、みんながやっていると思うと、やる人がいろいろ出てきます。先ほどご提案がありましたように、イベントからムーブメントということも非常に重要だと思いますので、よろしく願いいたします。皆さんにも、それぞれのお立場とか活動の中でそれらを図っていただきたいと思っております。

(4) (仮称) 札幌市環境プラザ事業検討部会の設置について

小林会長 では、もう45分になりましたので、最後の議題に入らせていただきます。

(仮称) 札幌市環境プラザ事業検討部会の設置についてという議題です。

事務局からご説明をお願いいたします。

事務局(高田環境教育担当係長) 環境教育担当係長をしております高田と申します。事業検討部会の設置につきまして、私の方からご説明させていただきたいと思っております。それでは、資料4をごらんいただきたいと思っております。

カラーの両面の資料です。

まず、札幌市の環境プラザにつきましてご説明させていただきます。

環境プラザは、平成15年に、札幌市男女共同参画センター、札幌消費者センター、市民活動サポートセンターとともに札幌駅の北口にあります札幌エルプラザ公共4施設の1施設として設置されました。環境に関する展示物や貸し出し用の研修室などがありまして、貸し室も含めた利用者数は平成20年度で約4万7千人にも上りまして、札幌市における環境保全に関する活動の総合的な拠点施設としての役割を担っている施設であります。

環境プラザの開設当時は、札幌市の職員によりまして運営されているという直営でありましたが、平成18年度から、指定管理者制度の導入によりまして、現在の財団法人札幌市青少年女性活動協会が運営しております。

それでは、資料の表面をごらんください。

これまで、環境プラザの事業などの検討につきましては、平成16年度から有識者や公募委員からなります札幌市環境活動推進会議の中におきまして議論していただいております。また、市民有志の幹事会によりまして環境プラザの運営に関する懇談会が開催されまして、市民が自由に参加できる場においても市民の意見を伺っております。

資料の課題をごらんいただきたいのですが、こちらの課題にございますとおり、札幌市の環境活動推進会議は、懇談会の幹事会の一部が委員として参加しまして、懇談会における市民意見を反映させるという役割も果たしております。

引き続きまして、資料の裏面をごらんください。

昨年度、会議体の統廃合によりまして、札幌市環境活動推進会議と札幌環境円卓会議の一部機能につきましては、この環境首都札幌推進協議会へとその役割は統合させましたが、環境プラザの事業につきまして検討する場につきまして、市民意見の反映と十分な検討時間が必要と考えられましたことから、別途、別の会議体を立ち上げることとなっております。しかし、環境プラザが環境問題に関する活動の総合的な拠点施設としての役割を果たすためには、札幌市の施策や方向性を事業に反映させるような仕組みが必要であるということで、単独の会議体ではなく、今後は環境首都札幌推進協議会の部会として位置づけることとしたいと考えまして、本日の議題として提案させていただいております。

つきましては、(仮称)札幌市環境プラザ事業検討部会を環境首都札幌推進協議会の部会として位置づけ、発足したく、ご承認いただきたいと思っております。

以上であります。

小林会長 米森課長、何か補足はありますか。

事務局(米森環境産業推進担当課長) では、私の方から、補足のお知らせ、お願いをさせていただきます。

今、見ていただきました裏面の資料にもございますが、今回、(仮称)札幌市環境プラザ事業検討部会ということで、今、ご説明を申し上げましたけれども、今後につきましては、私ども札幌市としての施策や方向性などを反映させるべき事業の実施につきまして、皆様からご意見、ご検討いただきたい内容が生じたときには、また、このような形で協議会の部会として立ち上げをお願いしたいと考えております。

また、今回の札幌市環境プラザ事業検討部会へは、協議会から委員が何名か、1、2名程度と考えておりますが、入っていただきたいと考えてございます。その他の委員につきましては、他から人選をいたしまして、合計で10名程度の部会として立ち上げたいと考えてございます。

以上でございます。

小林会長 ありがとうございます。

環境関連のいろいろな仕事が出る都度に設けていた委員会を整理、統合して、平成21年度は会議体の統廃合をこういう形にしたいというご提案であります。

それから、環境プラザというのは、ご存じのとおり、札幌駅の北口のエルプラザの中に4団体が入っている部分でありますけれども、その中の環境プラザの運用について、これは市民があそこで集まりをするための便宜の施設として作られたものであります。それから、展示空間もあって、修学旅行とか学校の先生も見にきたりする部分でして、そこをどういうふうに運用して、より生き生きとさせていくかということで、今ご説明ありましたような事業別の検討部会を、その都度、幾つか立ち上げたいというご提案であります。

何かご質問、コメントはございませんでしょうか。

井下委員、どうぞ。

井下委員 事業別の部会というのがちょっとイメージできないのですけれども、何かあったら教えてください。

小林会長 具体的に、例えばこんなものということでご説明いただけますか。

事務局(高田環境教育担当係長) 今回は、この環境首都札幌推進協議会が、今後、必要に応じていろいろな部会を立ち上げることができるというご提案と、具体的にその一つとしまして、札幌市の環境プラザの事業を検討する部会を立ち上げさせていただきたいという内容で、ちょっと紛らわしくなってしまうのですが、必要に応じて幾つかの部会を立ち上げる中の具体的な一つとしまして、環境プラザの部会を立ち上げさせていただきたいという提案です。

井下委員 わかりました。

小林会長 宮佐課長、どうぞ。

事務局(宮佐環境計画課長) もう一つだけ、補足になりますけれども、先ほど、今後、そういう部会を設置させていただきたいというご提案をさせていただいておりますが、委

員の選任につきましては、その都度、皆様にお集まりいただくということも、時間の関係上、問題があるかと思いますので、委員の選任につきましては、会長並びに副会長、そして私ども事務局に一任をさせていただきたいという提案も加えさせていただきたいと思えます。

よろしくご審議をお願いします。

小林会長 ありがとうございます。

この統廃合後の形のご提案、それから検討部会を設けるということについてのご承認、それから、人選については、その都度、会長、副会長並びに事務局に議事をお任せいただけないかというご提案であります。

いかがでしょうか。

特にご異論はありませんか。

(「異議なし」と発言する者あり)

小林会長 ありがとうございます。

それでは、ここがより皆さんが使いやすいものになって、より機能が保てるような部会を、その都度、つくらせていただきます。

ありがとうございます。

きょう、特にご発言なさなかった方が何人いらっしゃいますが、何かコメントはございませんでしょうか。

特にありませんか。

では、きょう用意した議題は全部終了いたしました。

のちほどこのメモリアルについてご説明いただけるのですね。

限られた時間の中で、皆さん活発にいろいろな意見交換していただいて、ありがとうございました。

では、事務局にお返しいたします。

5 その他

事務局(宮佐環境計画課長) どうもありがとうございました。

最後に、その他ということで、事務局から、1点、お知らせといたしますか、お願いがございます。

先ほど会長の方からありましたが、環境賞の関係でメモリアルのチラシをお配りさせていただいております。大変しつこいようですけれども、事務局の方から、もう一度、重ねてお願いいたします。

これは、昨年6月25日からちょうど1年がたったということで、それを記念してサンプラザで記念式典を開催する予定であります。その中で、今回、環境賞に選ばれた方々を表彰させていただくという内容になっておりまして、先ほども会長の方からございましたけれども、正直に申しまして、席に余裕がかなりございますので、皆様のネットワークや人脈などを使っていただきまして、多数の方に出席していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

もし、ご出席いただけるようでしたら、私どもの方に、電話でも結構でございますので、人数などご連絡いただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

6 閉会

事務局（宮佐環境計画課長） それでは、本日は、長時間にわたりまして活発なご審議をいただきまして、まことにありがとうございました。

これをもちまして、環境首都札幌推進協議会第2回会議を終わらせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

以 上